

シンポジウム「まちづくり・女性・大学」

パネルディスカッション

上野邦一学部長による「現代GP」や奈良女子大学における現代GPの取り組みについて説明を行った後、パネルディスカッションを実施した。ならまちで輸入民芸雑貨店「サマサマ」を運営されている今来準子氏からは「私の理想とならまち」、奈良市総務部長林啓文氏からは「地域振興と大学への期待」についてお話いただいた。その後、会場参加者からは様々な質問や意見が飛び交い、まちづくりに関する課題や方法について意見交換した。今来氏は以前は大手電器メーカーの家電部門デザイン担当として忙しい日々を送っていたが、ご両親の出身であるならまちで1993年にお店を構えた。「良いまちづくりとは良い店づくりで、自分が最大限の力で店を魅力的に個性的におもしろくするという目標に向かって頑張っていく事」として今来氏しかできないお店づくりにつとめている。ならまちについても「ほどほどにクールでホット」と語り、「ここで暮らせる事がまちづくり、自分づくり、店づくり」であり、普通の人の普通のならまちの暮らしを大切にしていきたい、と話した。

また奈良市役所の林氏もならまちの一角で生まれ育ち、現在もならまちでのまちづくり活動へ参加してきた経緯を持つ。「これからは行政のみならず住民一人一人やNPOと協働してまちの問題を解決していく事が大切ではないか」とした上で、観光都市としてのまちづくりという点で、「ならまち・きたまち・商店街」を結ぶ南北の観光コースが設定するためにも、奈良のまちを3つに分割して、奈良女子大学で現在実施している調査に期待を寄せている。

「古い町を売り物にしながらも、新しい感覚を持ち込む事が必要で、学生の新しい感覚でそれぞれの町や、商店街を見直すことを期待したい」と結んだ。



パネルディスカッションの様子

パネラー紹介

民芸雑貨店「サマサマ」
今来準子氏奈良市総務部長
林 啓文氏奈良女子大学生活環境
学部長/現代GP代表
上野邦一氏

●「一番難しいのは、人々の意識を変える事」という言葉がありましたが、考えさせられました。様々な人の気持ちのモチベーションが上がる事で様々な効果が生まれるお話には、様々な意味で希望をもらった気がします。(学生)

●村上市の「町屋と〜」についての知識が無く、シンポジウムのタイトルに惹かれて

参加しました。外から「自分たちの住む街をまなざす、まなざされる」事にとっても興味をもっており現在の自身の研究もその事です。「一歩中に入れてあげる」町屋をながめる見学は様々な示唆を与え面白く拝聴できました。(他大学学生)



講演の様子